

事業名 一般国道4号長町^{ながまち}
自転車歩行者道整備事業

「みんなにやさしい街づくり」に発展した
歩道整備（バリアフリー化）事業

受賞機関 国土交通省東北地方整備局
仙台河川国道事務所
事業実施期間 平成10年6月6日～平成12年4月22日
事業費 190百万円

事業等の特徴

本事業は、自転車歩行者道の整備事業で、事業にあたっては、計画段階から懇談会や現場点検等のPIを用いて地域と行政が協働して行っており、地域から事業の支持が得られたものとなっている。また、本事業では、工事完成後に、PI手法の検証、歩道整備の便益評価を行うために、当該地区の住民や通勤等で地区を利用する人を対象に、アンケートを実施して、整備効果のフォローアップを行っている。

事業の概要と利用者等の評価

本区間での自転車を含む歩道利用者数は7,525人/12h（平成10年調査）であったが、有効幅員は2.2mと狭いものであった。また、周辺にはJR・地下鉄の駅や総合病院、文化センター、図書館等の公共施設が密集する仙台市副都心の中核部であり、高齢者や身障者の通行にも配慮した歩道の整備（バリアフリー化）が特に必要と認められる区間であった。

○バリアフリー化の対策内容

具体的には、歩道の拡幅、段差・勾配の改善、水はね防止、騒音低減、点字ブロック改善など。

○PI（パブリック・インボルブメント）の実施

歩道整備計画策定にあたっては、最も係わりの深い地域住民から意見をもらった。

○事業の事後評価

PI手法の有効性の検証、歩道整備の便益評価等を行うために、学識経験者・商店会代表・行政側等による長町歩道整備事後評価検討委員会を設置し、長町地区の住民や通勤等で当地区を利用する人を対象に、平成12年11月～平成13年1月にかけて長町地区町内会・商店街の協力を得てアンケート調査を実施し、事後評価を行った。

○PI手法の有効性

「ゆとりーと懇談会」参加者からは「意見について事業に反映された」との評価であったが、「地元に住む若者や女性等をもっと懇談会に加えるべき」「懇談会参加者以外の地域の声をアンケートなどで聞いた方がよい」という意見もあった。

○便益評価

- ・便益計測結果（便益原単位の合計では身障者と60歳以上の女性の評価が高い結果となっている。）
- ・費用便益比（B/C 8.6）（歩道整備の便益（1人あたり）を用いて事業の費用便益比を算出）

審査委員会委員の意見等

- ・自転車歩行者道の整備において、事前のPIのみならず事後評価も適切に行われており、その取り組みが評価される。
- ・計画段階から地域住民の意見を聞き整備を行い、地域交流の場としての活性化につながっていることは評価できる。
- ・施設そのものに新規制やユニーク性はあまり感じられないが、PI方式、厳格な事業評価、タウンモビリティ等への発展などが評価できる。生活密着型の施設整備の一つのあり方を提示する事例。
- ・PIや事後評価検討会を設けて整備効果のフォローアップを実施していることなど評価される。
- ・自転車の市街地区域での課題は山積しており、具体的な解決が求められている点を評価される。

受賞賛助会員 日本舗道協東北支店



整備前



整備後